昭和42年12月23日第3種郵便物認可　毎月５日・15日・25日発行
(但し　1月5日.5月5日は休刊)

ロシア東欧 経済速報

社団法人 ロシア東欧貿易会　〒104-0033 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル Tel.(03)3551-6218
ロシア東欧経済研究所 http://www.rotobo.or.jp ［年間購読料・送料共前納 18,000円］

２０００年（平成１２年）１１月１５日 No. １１７６

目　次

ヨーロッパとロシアの狭間をバスで行く …… 服部　倫卓 1
ＣＩＳ諸国通貨の最新為替レート …… 13
キーパーソン　コシュトニッツァ・ユーゴスラビア大統領 …… 14

ヨーロッパとロシアの狭間をバスで行く

はじめに　筆者は９月13日から24日にかけて遅い夏期休暇を取得し、現在居住しているベラルーシを拠点に、ポーランド～バルト地域を私的に旅行した。ルートは、ミンスク（ベラルーシ）→ビアウィストック（ポーランド）→ヴィリニュス（リトアニア）→カウナス（同、ヴィリニュスからの日帰り）→リガ（ラトビア）→ダウガフピルス（同）→ポロツク（ベラルーシ）→ノヴォポロツク（同、ポロツクからの日帰り）→ミンスクというものである。観光地としてすっかり定着したヴィリニュス、カウナス、リガを除けば、普通外国人が行かないようなところばかりだ。移動はほとんどが長距離バス、ホテルはだいたい１泊30ドル前後のところを選んだ。なお、エストニアは去年の夏休みに行ったので、今回は省略。

東欧革命とソ連の解体から10年前後が経とうとしている。この間、ポーランド、チェコ、ハンガリー等は、ヨーロッパ世界への回帰を着々と果たしてきた。旧ソ連構成国でもバルト３国はその後を追おうとしている。これに対し、あくまでも我が道を行こうとするロシア、その求心力に引き寄せられるベラルーシのような国もある。もちろん、ヨーロッパ世界とロシア世界の間には、まだ確定的な境界線が引かれているわけではなく、グレーゾーンのような国（あるいは地域・住民）もある。筆者は今回、ヨーロッパ世界とロシア世界が混じり合う、言わば汽水域のようなところを旅してみようと思った。本稿では今回の旅行の雑感を、両世界間の障壁の問題、エスニック問題、経済・生活の格差を中心にまとめてみたい。

少し理屈っぽいことを言ってしまったが、あくまでも夏休みの絵日記のようなものなので、皆さんも夏休みの続きのつもりで気軽に読んでいただきたい。